

「責任者」は誰だ？！

この「騒動」はいったい何だったのか。安倍政権は 17 日、一転して現行計画の白紙撤回を宣言したが、それで一件落着とはいかない。

写真は朝日新聞 7 月 18 日朝刊で、民意「NO」政権一転の構図を描くが、いったい責任者は誰なのか。かなり前に「責任者出てこい」という漫才があった。東京五輪がらみの新国立競技場計画の「責任者出てこい」と言いたい。

ことの始まりは、2013 年の五輪招致・最終プレゼンテーションで、安倍首相が「ほかのどんな競技場とも似ていない真新しいスタジアムを作る」とアピールしたことだ。まずは安倍首相こそ「責任者」なのだ。福島原発事故は「コントロールされている」と世界にアピールしたのも、この人だ。

遅まきの「白紙撤回」は当然だが、どうも臭い。それを二人に語ってもらおう。

漫画家のやくみつる氏の話（日経 7 月 18 日）。「首相は国民の反対意見に耳を傾けたと言うが、それは違うだろうと突っ込みたい。安全保障関連法案は国民の理解が得られなくても進めたのだから。新国立競技場の問題で『耳を傾けた』とすれば、逆に腹が立つ。競技場問題は国民のガス抜きに使われただけではないか。

経費を詳細に考慮せずデザインが決められていたことにも驚いた。『見た目だけ（の評価）なら子供でも分かる』と言いたい。わたしはもともと東京五輪開催に反対の立場。今回の事態を『それみたことか』と思っている。」

もう一人は、「新国立白紙 安保強行採決隠す」という朝日新聞 7 月 19 日「声」欄への投書である。久しぶりの投書を考えていたが、この「声」を読んで断念した。

「安保法案が衆院を通過すると、一転して新国立競技場の建設計画の白紙見直しが発表された。私はそこに安倍政権の策略を感じてならない。国民の目を安保法案から新国立にそらしてしまおう、新国立について国民が満足する対応をして、安保法案の強行採決に対する国民の不満を和らげようという策略である。

だから、『だまされてはならない』と強く思う。確かに 2520 億円の国費の無駄遣いも見逃せない問題ではある。だが、戦後 70 年、曲がりなりにも守ってきた『国際紛争を解決するために武力を行使しない』という、日本の根本姿勢を覆してしまう法案を強引に通されることに比べたら、軽い問題だと私は考える。こんなところでの点数稼ぎは姑息だ。

安倍晋三首相は憲法の『戦争放棄』の精神を骨抜きにし、憲法そのものを誰にはばかることなく武力行使が可能なものに変えてしまうことに政治生命を賭けているらしい。この目標の阻止のため、国民もマスコミも惑わされることなく最大限の努力を最後まで放棄しないで欲しい。」



(2015 年 7 月 22 日)